



平成30年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年11月9日

上場会社名 株式会社IBJ 上場取引所 東
 コード番号 6071 URL https://www.ibjapan.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石坂 茂
 問合せ先責任者 (役職名) 財務経理部統括 (氏名) 小平 佳洋 TEL 050 (1745) 1194
 四半期報告書提出予定日 平成30年11月12日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年12月期第3四半期の連結業績（平成30年1月1日～平成30年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年12月期第3四半期	8,261	18.4	1,045	△6.1	1,039	△6.8	694	△6.2
29年12月期第3四半期	6,977	83.9	1,114	35.3	1,115	36.1	740	35.3

(注) 包括利益 30年12月期第3四半期 755百万円 (△0.1%) 29年12月期第3四半期 755百万円 (37.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年12月期第3四半期	17.37	17.16
29年12月期第3四半期	20.38	18.70

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年12月期第3四半期	7,045	3,371	47.4	84.27
29年12月期	6,220	3,171	50.9	80.30

(参考) 自己資本 30年12月期第3四半期 3,340百万円 29年12月期 3,168百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年12月期	ー	0.00	ー	9.00	9.00
30年12月期	ー	0.00	ー		
30年12月期(予想)				ー	ー

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無
 期末日時点における配当予想は未定であります。

3. 平成30年12月期の連結業績予想（平成30年1月1日～平成30年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,570	22.3	1,388	△7.1	1,382	△7.4	927	△10.5	23.15

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
新規1社（社名）株式会社Diverse

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年12月期3Q	41,307,300株	29年12月期	40,628,700株
② 期末自己株式数	30年12月期3Q	1,672,284株	29年12月期	1,170,084株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年12月期3Q	39,989,833株	29年12月期3Q	36,350,137株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、この四半期決算短信（添付資料）P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料の入手方法）

四半期決算補足説明資料はT D n e t で同日開示しています。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、雇用・所得環境の改善が続くなかで、底堅い内需を背景に、緩やかな回復基調で推移いたしました。一方、世界経済の動向に関する不確実性は続いており、我が国の景気を下押しするリスクは依然として含んでおります。

このような状況のもと、当社グループは、友人・恋人探しのマッチング事業、結婚支援事業、恋愛メディア事業の三本柱で、比較的ライトなユーザー層（婚活潜在顧客層）をターゲットとするDiverse社を新たな連結子会社とし、「日本の成婚の3%をIBJが創出する」中期経営計画実現に向けて婚活会員数の増加に努めてまいりました。また、成婚者及び婚活会員に対して、保険、旅行などの周辺サービスを提供するライフデザイン事業の基盤強化を図ってまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は8,261,058千円(前年同期比18.4%増)、営業利益は1,045,832千円(同6.1%減)、経常利益は1,039,748千円(同6.8%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は694,605千円(同6.2%減)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。なお、当第3四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「2 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(セグメント別の概況)

<コーポレート事業>

当セグメントは、コーポレート事業、連盟事業、FC事業により構成されております。

当第3四半期連結累計期間は、コーポレート事業における結婚相談事業者の新規開業支援の強化、連盟事業における日本結婚相談所連盟の会員向けアプリ「IBJお見合いシステム(お見合い管理システム)」の機能増強、連盟本部事務局機能の増強によるお見合い数の増加など、加盟相談所数・登録会員数の順調な増加により収益力が向上しました。また、FC事業における加盟店開拓に伴う加盟店数の増加により収益力が向上しました。

この結果、セグメント売上高は1,177,570千円(前年同期比21.7%増)、セグメント利益は671,486千円(同15.1%増)となりました。

<コミュニティ事業>

当セグメントは、コミュニティ事業により構成されております。

当第3四半期連結累計期間は、コミュニティ事業における婚活色を強めた婚活サイトのリニューアルによる機能拡充に伴う新規会員獲得強化、また、Diverse社の子会社化による会員数の増加による収益力の向上に努めた一方、提供サービスのクオリティ向上に伴う費用や、新規連結に伴うのれんの償却費が増加しました。

この結果、セグメント売上高は1,275,609千円(前年同期比73.9%増)、セグメント利益は259,702千円(同△43.0%減)となりました。

<ラウンジ事業>

当セグメントは、イベント事業、ラウンジ事業により構成されております。

当第3四半期連結累計期間は、イベント事業におけるアプリのダウンロード数増加促進、自社会場企画と開催数の拡充、自社会場企画に加え外部会場開催の企画型イベント等、クオリティ強化への取り組みを通じた動員数増加による収益力の向上に努めました。また、ラウンジ事業における上野マルイ店、大名古屋ビルヂング店、なんば店の新規オープンや、婚活アドバイザー及びカウンセラースタッフの拡充とスキルアップ(成婚の育み方)研修の計画的実施など、定員制ラウンジのクオリティ強化による入会数及び成婚数の増加に継続的に取り組んでまいりました。一方、新店舗のオープンに伴う費用や人員増強による費用が増加致しました。

この結果、セグメント売上高は2,702,309千円(前年同期比6.4%増)、セグメント利益は942,841千円(同13.1%減)となりました。

<ライフデザイン事業>

当セグメントは、ウェディング事業、旅行事業により構成されております。

当第3四半期連結累計期間は、ウェディング事業における提携式場数の拡充及び式場送客の増強、旅行事業における中南米、北米、北欧、フィリピン、パプアニューギニアなどのパッケージツアーを企画し、大手旅行代理店へのツアー提供やオーダーメイド旅行をアレンジするなど、収益力の向上に努めてまいりました。

この結果、セグメント売上高は3,105,569千円（前年同期比13.5%増）、セグメント利益は30,921千円（前年同期はセグメント損失62,278千円）となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は4,678,953千円となり、前連結会計年度末に比べ194,262千円増加いたしました。これは主に売掛金が377,346千円、預け金が216,991千円増加した一方、現金及び預金が429,962千円減少したことによるものであります。固定資産は2,366,157千円となり、前連結会計年度末に比べ630,454千円増加いたしました。これは主に建物が40,020千円、工具、器具及び備品が45,642千円、のれんが320,957千円、投資有価証券が93,628千円、差入保証金が122,018千円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は7,045,110千円となり、前連結会計年度末に比べ824,717千円増加いたしました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は2,347,079千円となり、前連結会計年度末に比べ315,038千円増加いたしました。これは主に未払金が101,057千円、前受金が510,123千円、賞与引当金が97,774千円増加した一方、未払法人税等が340,947千円、未払消費税が30,935千円減少したことによるものであります。固定負債は1,326,357千円となり、前連結会計年度末に比べ309,231千円増加いたしました。これは主に長期借入金が292,730千円、資産除去債務が12,467千円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は3,673,436千円となり、前連結会計年度末に比べ624,270千円増加いたしました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は3,371,674千円となり、前連結会計年度末に比べ200,446千円増加いたしました。これは主に新株予約権の行使83,701千円、配当金の支払355,127千円、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上694,605千円、自己株式の取得311,871千円、その他有価証券評価差額金60,413千円、新株予約権の発行29,765千円によるものであります。

この結果、自己資本比率は47.4%（前連結会計年度末は50.9%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年12月期の通期連結業績予想につきましては、最近の業績動向及びDiverse社の買収完了による当期業績への影響見込みの目途がたってきたことから、平成30年2月14日に公表いたしました業績予想を修正しております。詳細につきましては、平成30年8月10日に公表いたしました「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

なお、修正後の進捗率は、下図のとおりとなります。

(参考) 連結

(修正後) [対連結業績予想進捗率]	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
通期	71.4%	75.3%	75.2%	74.9%

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,607,498	3,177,536
売掛金	608,510	985,856
商品及び製品	3,082	3,998
仕掛品	2,708	3,007
原材料及び貯蔵品	31	75
前渡金	95,874	130,872
前払費用	84,447	124,675
預け金	—	216,991
未収還付法人税等	14,473	0
繰延税金資産	68,081	30,220
その他	3,058	8,057
貸倒引当金	△3,076	△2,339
流動資産合計	4,484,690	4,678,953
固定資産		
有形固定資産		
建物	429,773	504,154
減価償却累計額	△161,959	△196,320
建物(純額)	267,813	307,834
車両運搬具	4,268	4,268
減価償却累計額	△2,223	△2,990
車両運搬具(純額)	2,045	1,278
工具、器具及び備品	325,347	402,401
減価償却累計額	△238,533	△269,945
工具、器具及び備品(純額)	86,813	132,455
リース資産	9,000	9,000
減価償却累計額	△1,350	△2,700
リース資産(純額)	7,650	6,300
有形固定資産合計	364,323	447,868
無形固定資産		
のれん	85,962	406,919
ソフトウェア	313,392	306,465
その他	2,461	2,461
無形固定資産合計	401,817	715,847
投資その他の資産		
投資有価証券	165,581	259,209
関係会社株式	119,536	142,036
長期前払費用	4,849	3,603
繰延税金資産	20,997	—
差入保証金	494,650	616,669
保険積立金	163,946	180,922
投資その他の資産合計	969,562	1,202,441
固定資産合計	1,735,702	2,366,157
資産合計	6,220,393	7,045,110

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	124,873	130,318
短期借入金	160,000	160,000
1年内返済予定の長期借入金	298,360	276,860
未払金	184,696	285,753
リース債務	900	1,800
未払費用	298,634	255,475
未払法人税等	379,488	38,540
未払消費税等	88,574	57,638
前受金	471,178	981,302
賞与引当金	—	97,774
返品調整引当金	14,370	7,098
ポイント引当金	—	22,171
その他	10,963	32,344
流動負債合計	2,032,040	2,347,079
固定負債		
長期借入金	892,580	1,185,310
長期未払金	204	—
リース債務	6,600	4,350
資産除去債務	117,740	130,208
その他	—	6,489
固定負債合計	1,017,125	1,326,357
負債合計	3,049,165	3,673,436
純資産の部		
株主資本		
資本金	570,569	612,420
資本剰余金	570,569	612,420
利益剰余金	2,519,057	2,858,535
自己株式	△507,689	△819,561
株主資本合計	3,152,506	3,263,814
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	15,833	76,247
その他の包括利益累計額合計	15,833	76,247
新株予約権	2,886	31,612
純資産合計	3,171,227	3,371,674
負債純資産合計	6,220,393	7,045,110

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年9月30日)
売上高	6,977,999	8,261,058
売上原価	2,686,329	3,021,753
売上総利益	4,291,669	5,239,305
返品調整引当金繰入額	29,648	12,656
差引売上総利益	4,262,021	5,226,648
販売費及び一般管理費	3,147,798	4,180,816
営業利益	1,114,223	1,045,832
営業外収益		
受取利息	42	62
受取配当金	195	108
業務受託料	300	600
保険解約返戻金	5,101	—
補助金収入	—	900
その他	2,327	876
営業外収益合計	7,966	2,546
営業外費用		
支払利息	6,702	6,270
投資事業組合運用損	—	2,273
その他	18	86
営業外費用合計	6,720	8,630
経常利益	1,115,468	1,039,748
特別利益		
投資有価証券売却益	4,478	—
特別利益合計	4,478	—
特別損失		
固定資産売却損	640	—
固定資産除却損	7,672	16,633
減損損失	6,075	—
訴訟和解金	7,362	—
その他	—	1,674
特別損失合計	21,750	18,307
税金等調整前四半期純利益	1,098,196	1,021,441
法人税、住民税及び事業税	335,008	288,158
法人税等調整額	22,309	38,676
法人税等合計	357,317	326,835
四半期純利益	740,878	694,605
親会社株主に帰属する四半期純利益	740,878	694,605

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年9月30日)
四半期純利益	740,878	694,605
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	14,984	60,413
その他の包括利益合計	14,984	60,413
四半期包括利益	755,862	755,019
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	755,862	755,019

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成30年8月16日開催の取締役会決議に基づき、自己株式502,200株の取得を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において自己株式が311,871千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が819,561千円となっております。

(会計方針の変更)

「従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引に関する取扱い」(実務対応報告第36号平成30年1月12日。以下「実務対応報告第36号」という。)等を平成30年4月1日以後適用し、従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引については、「ストック・オプション等に関する会計基準」(企業会計基準第8号平成17年12月27日)等に準拠した会計処理を行うこととしました。

ただし、実務対応報告第36号の適用については、実務対応報告第36号第10項(3)に定める経過的な取扱いに従っており、実務対応報告第36号の適用日より前に従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与した取引については、従来採用していた会計処理を継続しています。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				
	コーポレート 事業	コミュニティ 事業	ラウンジ 事業	ライフデザイン 事業	計
売上高					
外部顧客への売上高	967,898	733,400	2,540,774	2,735,924	6,977,999
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	967,898	733,400	2,540,774	2,735,924	6,977,999
セグメント利益又は 損失(△)	583,477	455,767	1,084,420	△62,278	2,061,387

	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
売上高		
外部顧客への売上高	—	6,977,999
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—
計	—	6,977,999
セグメント利益又は 損失(△)	△947,164	1,114,223

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△947,164千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

コミュニティ事業にて、サービスを廃止したアプリケーションについて、ソフトウェアの帳簿価額の全額6,075千円を減損損失として特別損失に計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

前第2四半期連結累計期間に行われた株式会社ウインドアンドサンとの企業結合について、暫定的な会計処理を行っていましたが、第2四半期連結会計期間に確定しております。しかし、暫定的に算定されたのれんの金額83,953千円に修正は生じておりません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成30年1月1日 至平成30年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				
	コーポレート事業	コミュニティ事業	ラウンジ事業	ライフデザイン事業	計
売上高					
外部顧客への売上高	1,177,570	1,275,609	2,702,309	3,105,569	8,261,058
セグメント間の内部売上高又は振替高	3,050	478	—	422	3,950
計	1,180,620	1,276,087	2,702,309	3,105,991	8,265,009
セグメント利益	671,486	259,702	942,841	30,921	1,904,952

	調整額	四半期連結損益計算書計上額
売上高		
外部顧客への売上高	—	8,261,058
セグメント間の内部売上高又は振替高	△3,950	—
計	△3,950	8,261,058
セグメント利益	△859,120	1,045,832

- (注) 1 セグメント利益の調整額△859,120千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- 2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

株式会社Diverseの株式を取得したことに伴い、当第3四半期連結会計期間より報告セグメントの区分方法の見直しを行い、「婚活事業」、「ライフデザイン事業」から「コーポレート事業」、「コミュニティ事業」、「ラウンジ事業」、「ライフデザイン事業」に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

コミュニティ事業において、株式会社Diverseの株式の取得に伴い、当第3四半期連結会計期間より同社を連結の範囲に含めております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては348,967千円であります。

(重要な後発事象)

(株式取得による会社の買収)

当社は、平成30年11月9日開催の取締役会において、全研本社株式会社の子会社であるハピライズ株式会社の株式を取得し、子会社化することについて決議し、同日付で株式譲渡契約を締結いたしました。

(1) 株式取得の目的

ハピライズ株式会社(結婚相談所サンマリエ)は、真剣な婚活ユーザーをターゲットとし、「出会いの総合プロデューサー」として多くの成婚を生み出しております。この創業37年を迎えるサンマリエのブランド力とIBJの婚活サポート力の相乗効果により、出会いの機会の拡充と会員基盤の拡大を図り、「日本の成婚の3%をIBJが創出する」中期経営計画実現に向けた事業の更なる発展を図ることを目的としております。

(2) 株式取得の相手会社の名称

全研本社株式会社

(3) 買収する相手会社の名称、事業の内容、規模

①被取得会社の名称 ハピライズ株式会社

②事業の内容 結婚支援事業

③資本金の額 8百万円

(4) 株式取得の時期

平成31年1月1日

(5) 取得する株式の数、取得価額及び取得後の持分比率

①取得する株式の数 800株(予定)

②取得価額 400百万円

③取得後の持分比率 100%

(6) 支払資金の調達方法及び支払方法

借入による資金による取得